

ン	を	も	る	「	「	急	「	し	カ	る		気	映	頼	今	相	「	で	「
タ	通	な	だ	ひ	こ	い	ど	な	ウ	こ	「	が	っ	関	の	変	あ	き	こ
ー	り	く	け	っ	れ	で	っ	が	ン	と	良	し	っ	係	言	わ	り	こ	こ
を	抜	後	け	っ	で	椅	、	ら	タ	を	か	た	っ	が	葉	ら	が	と	こ
見	け	ろ	て	っ	は	子	ど	背	ー	を	っ	ね	、	少	の	ず	と	で	こ
つ	い	を	い	っ	湧	か	う	中	を	軽	え	番	、	し	表	感	し	し	こ
め	き	振	き	っ	き	ら	い	越	々	々	才	。	、	め	面	情	た	ら	こ
る	上	り	上	っ	上	離	う	し	と	と	。	少	、	な	上	が	ら	な	こ
し	が	返	が	と	る	れ	こ	に	飛	飛	。	し	、	い	だ	読	ん	な	こ
か	番	と	る	笑	不	、	と	番	び	越	。	、	、	け	め	不	な	り	と
な	才	、	安	う	を	番	で	才	え	え	。	、	、	を	な	気	と	。	。
か	は	音	抑	女	切	は	す	に	、	。	。	。	、	掬	味	さ	。	。	。
っ	無	も	え	將	れ	そ	か	そ	女	。	。	。	、	う	は	は	。	。	。
た	人	な	切	の	。	う	っ	う	將	。	。	。	、	と	あ	あ	。	。	。
。	な	く	れ	背	。	。	！	告	は	。	。	。	、	、	ら	ら	。	。	。
	っ	漠	る	中	。	。	？	げ	歩	。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	た	空	わ	を	。	。	」	た	き	。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	カ	が	け	見	。	。	」	。	出	。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	ウ	横	わ	つ	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	ン		け	め	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	タ		め	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	ー		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	を		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	通		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	り		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	抜		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	け		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	て		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	い		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	き		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	、		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	番		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	才		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	は		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	無		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	人		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	に		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	な		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	っ		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	た		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。
	。		。	。	。	。	」	。		。	。	。	、	、	。	。	。	。	。

が	に	や		自	片	（	の	四	の	（	「	「	「	像	ど		骨	を	の
古	到	く	そ	分	方	神	か	階	物	恐	い	あ	・	が	ん	張	使	間	
の	達	こ	う	の	の	様	見	や	た	ら	え	・	つ	ど	っ	う	に	に	
神	し	の	し	想	口	・	当	五	ち	く	そ	・	く	な	た	た	た	に	いた
殿	た	上	て	像	角	・	も	階	”	、	う	・	だ	物	ち	が	巨	あ	あ
の	。そ	に	さ	を	だ	・	つ	に	が	二	だ	あ	ら	が	が	躯	の	案	案
よ	こ	続	ら	嘲	け	・	か	は	い	階	よ	ん	は	宿	や	の	内	内	人
う	こ	く	に	笑	を	・	な	ど	る	に	。あ	、	二	泊	美	人	人	人	の
に	か	巨	先	し	上	と	い	ん	の	”	。あ	階	し	して	禄	と	と	頭	の
も	ら	大	進	た	げ	か	い	な	だ	”	。あ	で	て	い	が	頭	中	中	で
見	改	な	ん	と	、	？	い	わ	と	”	。あ	か	る	か	。そ	中	で	目	目
え	め	階	だ	こ	よ	そ	い	け	こ	”	。あ	な	ん	と	れ	で	目	が	合
て	て	段	と	ろ	う	ん	い	な	ろ	”	。あ	と	な	く	だ	で	目	が	合
し	振	の	と	で	。こ	な	い	い	う	”	。あ	く	想	で	け	。こ	。こ	。こ	。こ
ま	り	一	こ	、	。こ	か	い	い	。こ	”	。あ	く	。こ						
ま	返	段	こ	。こ	。こ	い	い	い	。こ	”	。あ	く	。こ						
う	と	の	。こ	。こ	。こ	い	い	い	。こ	”	。あ	く	。こ						
。手	、	付	。こ	。こ	。こ	い	い	い	。こ	”	。あ	く	。こ						
すり	宿	近	。こ	。こ	。こ	い	い	い	。こ	”	。あ	く	。こ						

番才の不安をわかってか、女将は振り返り	ると。そこへ行くんだよ。」	とがあるだろう。この森の先には“泉”があ	「ここに来たばかりの頃に一度だけ話したこ	止める。」	懐葉の森での苦い経験が先を歩く二人の足を	「この森の奥に行くのですか？」	続いていた。	向けると、そこだけ明らかに木を避けた道が	なく真っ直ぐ歩き続ける二人の行く先へ目を	にはすぐに森が広がっている。なんの迷いも	掛かっていない。だがその代わりに階段の先	ではなく、緩やかな階段を下りた先には橋も	表に流れていた川は裏側を囲んでいるわけ	ては振り返りをしばらく続けていた。	階段の先は角度的に見えないが、番才は歩い	（ここを利用する宿泊者とは一体・・・）	きさだった。	段目からよじ登らないと上がれないほどの大	のついた荘厳な造りの階段は、確かにその一
---------------------	---------------	----------------------	----------------------	-------	----------------------	-----------------	--------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-------------------	----------------------	---------------------	--------	----------------------	----------------------

が	望	ん	で	い	る	か	ら	と	い	っ	て	、	こ	ち	ら	が	一	方	的
体	験	に	縛	ら	れ	て	生	き	辛	く	な	っ	た	物	も	い	る	。	だ
し	た	上	こ	こ	に	来	た	少	女	も	い	る	し	、	過	去	の	成	功
た	り	す	る	。	大	人	に	なん	ぞ	なり	た	く	ない	と	絶	望			
て	し	た	ら	、	そ	れ	こ	そ	死	に	たい	ほ	ど	の	悩	み	だ	っ	
っ	て	は	大	し	た	こ	と	じ	ゃ	な	く	て	も	、	当	人	に	と	っ
「	あ	あ	。	悩	み	なん	て	人	そ	れ	ぞ	れ	だ	。	誰	か	に	と	
す	ね	。」																	
「	紅	蘭	さん	以	外	に	も	。	。	い	ら	っ	し	ゃ	る	ん	で		
し	て	、	そ	の	希	望	通	り	に	な	っ	た	も	の	も	当	然	い	る
紅	蘭	以	外	に	も	、	地	獄	を	希	望	し	て	い	る	も	の	、	そ
な	こ	と	だ	と	決	め	つ	け	る	こ	と	も	誰	に	も	で	き	な	い
「	そ	れ	と	同	じ	よ	う	に	、	地	獄	に	行	く	こ	と	が	愚	か
気	づ	か	な	か	っ	た	の	か	。	。	。」								
も	。	で	も	、	考	え	る	と	そ	う	で	す	よ	ね	。	ど	う	し	て
	「	そ	れ	は	。	。	。	恥	ず	か	し	い	話	、	今	ま	で	一	度
つ	消	し	去	ら	れ	た	。												
女	将	の	問	い	か	け	に	、	番	才	の	当	た	り	前	が	ま	た	一
な	い	か	い	？	」														
物	が	揃	っ	て	い	る	の	か	、	不	思	議	に	感	じ	た	こ	と	は

